【中日新聞　令和２年（2020 年）１月７日（火）】

⑥ 蘇南高校（南木曽町）

外国人向け 手作り地図

おもてなしの流儀

授業一環で声集め

❶与川道の英語の案内地図を作った深谷さんと宇佐美さん＝南木曽町の蘇南高で
❷英語を添えポイントもあり外国人観光客に人気の与川道＝南木曽町で

「Let's walk Yogawa Road！」

木曽地域の「与川道」を紹介する外国人向けの案内地図。英語による説明もイラストもすべて手がきで、ルートとともに木曽川支流や観光ポイントなど周辺の情報を盛り込んだ。手作り感あふれるマップで、木曽路の歴史探訪へといざなう。

与川道は南木曽町三留野から同町与川を経て大桑村野尻に至る道。かつて三留野宿－野尻宿間の木曽川沿いの中山道が水害で通行できなくなった際などに、峠越えの迂回路として利用された。ここ数年、この道を歩く外国人ハイカーが増えているという。

地図を作ったのは、南木曽町の蘇南高校三年生の深谷華花さん（ごと）と宇佐美神月さん（ごと）。二人は本年度、三年生がグループで取り組む「総合研究」の授業の一環で、「南木曽を訪れる外国人が困っていることを解決しよう」をテーマに研究。地図はその過程で誕生した。

同校の総合研究では、若い世代の視点で「おもてなし」のあり方を模索するムードが生まれている。昨年度も、外国人観光客への対応をテーマにＪＲ南木曽駅周辺の観光地図を作製したグループがあった。本年度は、深谷さんら以外にも外国人観光客関連の研究に取り組む生徒がいた。

背景には、近年、外国人を中心に中山道人気が高まっていることがある。公益財団法人「妻籠を愛する会」（同町）によると、地元の妻籠宿と馬籠宿（岐阜県中津川市）の中間にある無料休憩所「一石栃立場茶屋」に立ち寄るハイカーは年々増加。全体に占める外国人の割合は二〇一六年に初めて50％を超え、一八年は63％。一九年は十一月までの集計で67％と右肩上がりだ。

深谷さんと宇佐美さんは昨秋、一石栃立場茶屋で外国人ハイカーの要望を調査。素朴な山道を歩ける与川道の注目度が増していることを知り、同時に「情報マップがほしい」「標識が少ない」との声を聞いた。

外国人の率直な意見を踏まえて与川道の地図の製作を開始。地図上に路傍の石仏や石塔、古くからある休憩所の位置を記し、ＪＲ野尻駅発の電車の時刻表も載せた。

一石栃立場茶屋で配布したところ、回答があった三十五人のうち、三十四人は「excellent（とても良い）」、一人が「good（良い）」と評価。縮尺や各地点の標高を入れた方が良かったとの指摘や提案もあった。

外国人の評判は上々。二人は「外国人が関心を持って改善点を教えてくれたのが良かった」と振り返り、調査で今まで気づかなかった観光ニーズを掘り起こせたことを喜ぶ。

指導した西沢博樹教諭は「外国人観光客をどう受け入れるのがいいのか。考えを出し合い、現場で実践してみることは大切。新年度以降も、生徒たちにより深い内容の研究をしてほしい」と期待した。

（近藤隆尚）